



鋤柄 稔先生

第10回赤ひげ大賞を受賞した市内大字松山にあるシャローム病院院長の鋤柄稔先生にお話を伺いました。

赤ひげ大賞とは、地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師の功績を顕彰することとして、平成24年に創設され、鋤

柄先生を始め5人が受賞されました。

シャローム病院は「緩和医療」「在宅医療」「救急医療」を三つの柱としており、在宅医療において

は、患者さんから依頼があれば、疾患や年齢、距離に関わらず往診に行くことをモットーとしています。鋤柄先生にお話を伺った日も、この後、深谷まで往診に行く予定があるとのこと。

「賞を取ったから終わりではなく、通過点だと思っている。自分一人の力ではなく、病院全体、職員全員と一緒に受賞したということを忘れずに歩いていきたい。」と鋤柄先生は語ってくれました。

これからもお体につけて、地域医療のために頑張ってください。



診察時



表彰式(提供 産経新聞社)



たなかりまこ 田中理恵子園長



埼玉県子ども動物自然公園

～園長おすすめ アルマジロカゲ～

### ちっちゃい恐竜

なかよしコーナーには、手のひらに乗るほどの小さなトカゲが小窓に展示されています。全身トゲトゲの硬そうな皮膚とキリッとした精かんな顔のアルマジロカゲ。いつ行っても活発に動いていることはありませんが、黒々とした目でじっと一点を見つめている姿がわりと可愛いです。動きが止まるとポーズをとっているの、ついつい写真も撮ってしまいます。動きがないから、じっくり観察もできます。とがった皮膚は、首からシッポの先、指先までを覆い、どこを触っても痛そうです。この展示をのぞく子供たちは、きまって「恐竜！恐竜！ちっちゃー恐竜！」と言います。

このトカゲは、南アフリカ共和国の乾燥地帯に暮らしています。単独で暮らすトカゲが多い中、珍しく群れでいることを好みます。走るのが遅いといわれていて、危険を察知すると岩の隙間に逃げ込んだり、自分のシッポをくわえ丸くなって防御のポーズをとります。その姿がまるで丸くなるアルマジロ(先月月のコラムをご覧ください)のようなのでこの名前が付きまして。体はとても硬そうなのに意外と丸まるなんて、動物園でイチニを争うほど体が硬い私からしたらありえない離れ技です。一度その姿をみてみたいと思いますが、動物園では危険が迫ることがないため、いまだに見せてくれません。丸まらないのは環境が穏やか、ということでしょうか。飼育下では15年ほど生きるといわれるアルマジロトカゲですが、園の個体はもう15歳を越えました。丸まらなくていいから、長生きしてほしいと願っています。



まるで小さな恐竜



きりっとして動きません



足の先までトゲトゲです

